

潮位観測点	'44	'46	潮位時間値資料存在期間	観測開始	年平均潮位(C)	1944年東南海地震時	1946年南海地震時	潮位資料探索場所	その他
内浦			1944.1-8,12, 1946.9-12	A: 1932.11 B: 1932.11 H: 1932.11	1938 ~、 1944-46 有	三津に於て検潮儀観測をしてゐるが今回の津浪を立派に記録する事が出来た(E) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	内浦検潮儀記録(図参照)によると... (津波の検潮儀記録が掲載されている)(F) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	気象庁	フース型(D)。Dの集録期間は1944.1/11-1948.12/31。1950.1 フース型日巻に変更(以前はアレス)(H)。
御前崎			1951.8-	A: 1958.6 B: 1958.6 H: 1958.6	1937、 1944-46 欠	(記述なし)	(記述なし)	気象庁	1937年の年平均潮位値について気象庁、海岸昇降検知センターに確認したが不明
舞阪			1944.10-12, 1946.10-12	A: 1933.11 B: 1933.11 H: 1933.11	1956 ~	自記紙写しあり(G)	検潮所記録示さず(F)	気象庁	1933.11 観測開始、フース型(H)。記録不良。
前芝 (愛知県)	×			A: 1933.1 B:		(記述なし)	師崎、形原、前芝、福江の験潮儀記録を示す(F)	愛知県豊橋土木事務所(電話確認)月平均潮位のみあり。年報の1944年11,12月の欄に斜線。	
形原 (西浦) (愛知県)				A: 1952.10 B:		形ノ原の南の西浦部落に愛知県土木課の験潮所があるが、ここでも引潮で始まった小津浪を観測してゐる(E)	師崎、形原、前芝、福江の験潮儀記録を示す(F)	愛知県豊橋土木事務所(電話確認)月平均潮位のみあり。	
福江 (愛知県)				A: 1918.3 B:		愛知県土木課の験潮儀に依ると地震後30分位にして引潮に始まる津浪が観測されてゐる(E)	師崎、形原、前芝、福江の験潮儀記録を示す(F)	愛知県豊橋土木事務所(電話確認)月平均潮位のみあり。	
武豊 (愛知県)		×		A: 1933.4 B:		この検潮儀は地震のため針が飛び記象なし(E)	(記述なし)	愛知衣浦港務所(電話確認)月平均潮位のみあり。年報に1946年10,12月は欠測とあり。	
師崎 (愛知県)				A: 1921.1 B:		愛知県土木部の験潮所がある。第4図にその記象を示す。(E)	師崎、形原、前芝、福江の験潮儀記録を示す(F)	愛知県半田土木事務所(電話確認)月平均潮位のみあり。	
名古屋		×	1949.1-	A: 1949.1 B: 1913.2 H: 1949.1	1914 ~、 1944-46 欠	築港の検潮儀は地震のため故障し記録なし(E)	(記述なし)	名古屋地方気象台(電話確認) 気象庁	1944.12 東南海地震による地盤沈下のため観測中止。1947.9 観測を再開。(名古屋地方気象台、1990)
松阪 (三重県)				A: 1952 B:		第2図のやうな貴重な記象を得る事が出来た(E)	(記述なし)	三重県津松阪港管理分所(電話確認)昭和28年13号台風で事務所が流され、それ以前の記録はない。	
鳥羽		×	1944.10-12, 1945.1-10, 1958.3-	A: 1925.12 B: 1925.12 H: 1925.12	1950 ~	地震動のために記録装置の時計のベラベラ捻切れて了ひ、その上浮標との接合点が切断したために振幅さへ読取る事が出来ない状態にあった(E)	(記述なし)	気象庁	1924.1 観測開始、1925.12 観測再発。東南海地震により導水管折損以来故障。(H)
尾鷲			1953.4-	A: 1953.3 B: 1966.6	1954 ~	検潮儀の記象は流失せる由につき(E)	(記述なし)	尾鷲測候所(電話確認) 気象庁	1922.11 三重県観測開始、リシャル型。1952.8 新検潮所竣工、1953.2 観測再開、1953.4 中央気象台委託観測開始(H)。
浦神	×		1946.10-12	A: 1950.2 B: 1938.4 H: 1943.11	1948 ~	浦神検潮儀はリシャル式なるも自記紙無く既に六ヶ月程前より休止しありて用を辯ぜざりしは痛恨の極みであった(E)	12月20日10時まで記録した自記紙写しあり(G)	潮岬測候所、神戸海洋気象台、気象庁	1938.4 和歌山県観測開始、1938.5 中央気象台に移管、リシャル型(H)
串本			1950.7-	A: 1950.2 B: 1985.6 (Bは誤りとのこと) H: 1950.2	1896 ~、 1944-46 欠	串本検潮儀はケルピン式なる為地震動で起動器停止し用を為さざりし(E)	検潮所であるが井戸を残して上部の建物は...海中に数箇にわれて轉落してゐる(F)	潮岬測候所、神戸海洋気象台、気象庁	ケルピン型(D)。Dの集録期間は1941.2/13-1943.8/16。1895 陸軍観測開始、1925.1 中央気象台観測開始(H)。
下津			1943.1-10, 1944.12, 1946.10-12	A: B: 1925.11		和歌山県下津の検潮記象をも合せて此處に掲載する(E) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	検潮儀第三波迄記録(F) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	和歌山地方気象台、気象庁	1966.6 白浜に移設(B)。1926.5 和歌山県観測開始、1927.7 中央気象台観測開始、リシャル型(H)。

和歌山			1952.5-	A: 1949.5 B: 1949.5 H: 1949.5	1950 ~	津波を記録した自記紙写しあり、所管は運通省和歌山港修築事務所との記述あり(G)	(記述なし)	和歌山地方气象台、気象庁	
淡輪			1943.10-12, 1944.12, 1952.1-	A: 1935.10 B: 1935.1 H: 1935.10	1952 ~	(検潮儀記録から読取った津波の高さが掲載されている)(E) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	(記述なし)	気象庁	1934.12.26 淡輪検潮所新設、翌年1月1日観測開始(大阪管区气象台、1982)、1935.1 大阪市観測開始、1943 中央气象台観測開始、1947.5 現在岡田式使用(H)。
大阪			1944.11-12, 1945.1-5, 1948.8-	A: 1935.1 B: 1903 H: 1935.1	1903 ~、 1944-46 欠	築港検潮儀の記録を閲覧するに小規模乍ら然し美事な津浪潮候を見(E) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	(記述なし)	気象庁	1934.9.17 築港検潮所(天保山)新設、観測開始(大阪管区气象台、1982)、1903 大阪市観測開始、1935.1 中央气象台委託観測開始、1947.5 現在岡田式使用(H)。
神戸			1942-1943. 10, 1946.10-12	A: 1899.5 B: 1925.12 H: 1899.5	1926 ~、44 有、46 欠	津波を記録した自記紙写しあり(G)	津波を記録した自記紙写しあり(G)	神戸海洋气象台、気象庁	1900.1 内務省観測開始、1925.12 中央气象台委託観測開始、1947.5 現在リサーチ型使用(H)。
洲本			1944.10-12, 1947.9-	A: 1936.9 B: 1936.9 H: 1936.9	1941 ~、 1944-46 欠	津波を記録した自記紙写しあり(G)	(記述なし)	気象庁	1936.9 兵庫県観測開始、1941.1 中央气象台へ移管、1947.5 現在岡田式使用(H)。
高松		×	1952.3-	A: 1949.1 B: 1949.1 H: 1949.1	1949 ~	(記述なし)	津波を記録した自記紙写しあり(G)	高松地方气象台、気象庁	河角広(1956)に 1945.1 ~ 1950年の月平均潮位(年周補正)グラフあり。高松地方气象台(1950)に「高松港の潮汐観測は中断されていたものを当台で、昭和21年12月20日から再び観測を開始した」とある。
豊益 (四国地方整備局)				A: 1930.1 B:		(記述なし)	(記述なし)	四国地方整備局那賀川工事事務所(電話確認)	河角広(1956)に 1944.7 ~ 1950年の月平均潮位(年周補正)グラフあり。
宇和島	-		1946.10-12	A: 1927.5 B: 1927.5 H: 1927.5	1941 ~、 1944-46 有	津波を記録した自記紙写しあり(G)	(検潮儀による津波の実測値が掲載されている)(F) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	宇和島測候所、気象庁	1927.5 観測開始、リサーチ型、1946 フース型(H)。
伊予港 (愛媛県)				A: 1938.12 B:		(記述なし)	(記述なし)	愛媛県伊予土木事務所(電話確認)残っていない。	
土佐清水			1944.10-12, 1946.10-12	A: 1931.1 B: 1931.1 H: 1931.1	1941 ~、 1944-46 有	津波を記録した自記紙写しあり(G)	津波を記録した自記紙写しあり(G)	気象庁	1931.6 観測開始、1941 新ケルビン型(H)。
細島 (地理院)			1944.10-12, 1946.10-12	A: 1894.1 B: 1894.1	1894 ~、 1944-46 有	(記述なし)	内務省細島検潮所の検潮儀の記象(第2図参照)によれば...(津波の検潮記録が掲載されている)(F)	国土地理院	
油津	-		1946.7-11, 1951.9-	A: 1928.3 B: 1928.3	1950 ~	津波を記録した自記紙写しあり(G)	検潮所の検潮儀は地震とともに時計がとまって、津浪のはじめの状況は記象されなかった(F) 津波を記録した自記紙写しあり(G)	気象庁	D 集録期間は 1943.1/22-1948.12/31(1943.10/14-1946.6/31,1946.12/1-1947.3/31 欠測)。ケルビン型(D)

A: 全国駿潮場一覧(海岸昇降検知センター、1994)

B: 駿潮場取付水準測量成果集(海岸昇降検知センター、1996)

C: 日本列島沿岸の年平均潮位とそのグラフ(海岸昇降検知センター、2000)

D: 潮汐観測第2集(気象庁、1952)(1941.2/13 ~ 1948.12/31 まで収録)

E: 東南海大地震調査概報(中央气象台、1945)

F: 南海道大地震調査概報(中央气象台、1947)

G: Tide Gauge Records of Tsunami Observed in Japan (Japanese Organization for Tsunami Investigation、1957)

H: 気象庁海洋気象課資料

: 記録現存、 : 当時観測していたが記録不明、 : 当時観測していたが記録紛失、 × : 当時観測していない、 : 当時観測していたか不明、 - : 未調査
潮位時間値資料存在期間は、1944.10-12、1946.10-12 が収集対象だが、これらの期間の資料がないものは参考に存在する期間を示す。